

自己点検・自己評価 報告書

平成30年度

評価対象期間
平成30年4月1日～平成31年3月31日

学校法人 赤門学院

専門学校 赤門自動車整備大学校

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
学校理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)		3⇒4
学校における職業教育の特色は何か		3
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか		3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		3

[1. 課題]

学校理念に基づいた指導は適切に行われていると判断できる。社会人として、自動車業界で活躍できる人材育成を目標として取り組んでいるが、指導成果がでるまでに時間が掛かる学生もいる現実がある。
近年外国人留学生の入学が増加しており、日本人との文化の違いがあるため、日本人が当たり前のようにできる事を行わない、知らないという面も見受けられる。

[2. 今後の改善方策]

教職員が一丸となって学校理念に基づいた教育を統一して行っていくことが重要である。外国人留学生については、留学生特有の事情を考慮した教育方針を別途定め取り組んでいき、日本で活躍できる人材育成を行っていく。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
目的等に沿った運営方針が策定されているか		3
運営方針に沿った事業計画が策定されているか		3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		3
人事、給与に関する規程等は整備されているか		3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか		3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか		3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか		3

[1. 課題]

当学校の知名度が低いと思われる。現場の意見を受け入れ、外部・地域住民との連携を深める。人員削減を過度に推し進めた結果、職員1人当たりの業務がひっ迫し破綻の状態が続いている。その状態が慢性化して、教務の職員は日々疲弊しているにもかかわらず、改善の道筋が現場の職員には見えてこないため、諦めのムードが漂っている。

[2. 今後の改善方策]

マスメディアを活用し、願わくば運営サイドの現状の把握と改善、システムの構築を願う。また、外部の意見や現場の教員の意見や要望をよく聞き、今後反映されることが必要で、地域貢献活動の充実も必要である。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3⇒4	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4⇒3	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3	
授業評価の実施・評価体制はあるか	3	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3⇒2	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	2	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3	

[1. 課題]

①人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。②関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントがおこなわれているか。

[2. 今後の改善方策]

新人教員、職員面接時から、個人の特質、特性を見極める必要がある。現在も仕事量に対しての人員不足は変わらない事から早急な人材育成目標要件を備えた人材を確保すべきである。また早急に教職員の意識を高める様、研修会を継続するべきである。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学習成果

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
就職率の向上が図られているか	3⇒4	
資格取得率の向上が図られているか	3	
退学率の低減が図られているか	3	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2⇒3	

[1. 課題]

就職に関しては入学後担任と就職課による就職指導を行い、進路指導時間を設け計画的な指導の下、学生の希望する企業に内定が得られているが、留学生の就職の受入れ先の維持及び確保が求められる。資格取得率は各種資格に関しては取得に向けた特別授業を行い、学生の取得意欲も高く、国家試験については、常に100%を目指した指導方法を行っている。退学率に関しては、金銭的な理由や進路変更等によるやむ負えなく退学する学生も一部いるが、担任による指導、保護者との連携や面談を状況に応じて実施し、前年度に比べ一定の成果が得られている。卒業後の把握については、一部の学生については、企業のセミナー等で活動状況や退職理由を聞き、在校生への指導に結び付けているが、動向調査が不十分であり、問題点の把握が少ない。

[2. 今後の改善方策]

就職に関しては、概ね学生の希望する企業に内定が得られているが、入社試験対策の強化、就職に対する学生の意識改革の時期を早め、更なる指導成果の向上を目指し、留学生に関しても就職先の維持及び確保を継続して行う。国家試験に関しては、常に100%を目指した指導方法を行っているが、国家試験に取り組む姿勢、能力を持った教員が少なく、又、教員が資格取得に専念できる環境を構築していく必要がある。退学率の低減については、奨学金等のサポートを多く提案し、進路変更による退学は、目的意識を維持できるように学生指導を継続していく。卒業後の把握に関しては、就職先の企業、セミナー等を通じて情報交換を行っているが、一部の学生に関してしか把握できていないのが現状であり、企業との連携を深め、卒業後の動向調査の強化を図る。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	
学生相談に関する体制は整備されているか	3	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3⇒4	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	
学生の生活環境への支援は行われているか	3	
保護者と適切に連携しているか	3	
卒業生への支援体制はあるか	3	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2	

[1. 課題]

経済的に困窮している学生が多い。学生相談窓口の利用者が少ない。寮及び食堂に関する環境の見直しが必要と思われる

[2. 今後の改善方策]

学納金の納付の仕方の制度の見直し。学生が利用しやすい相談窓口の見直し、及び言葉の不自由な留学生への援助。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3⇒2	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	
防災に対する体制は整備されているか	3	

[1. 課題]

実習場により施設・設備の整っている実習場もあるが、教材の老朽化や新技術への対応が出来ていない実習場もあり、教材導入等の対応が必要である。しかし、テストコースを使用した車両走行実習ができ、学外でのインターンシップも増えつつある。

[2. 今後の改善方策]

急激に変化している教科書や新しい車両に搭載されている教材への入れ替えを計画的に進め、現在、導入が進む電子制御システムや電気自動車に対応した教育をしていく必要がある。

[3. 特記事項]

山形県飯豊町に電気自動車に特化した専門職大学を設立予定であり、今後は電気自動車の専門知識の一部を赤門自動車整備大学校でも教育できる可能性がある。

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

項目名	適切・・・4	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2	不適切・・・1
学生募集活動は、適正に行われているか	3	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3	
学納金は妥当なものとなっているか	3	

[1. 課題]

学校見学会やイベントへの参加者が少ない。（特に日本人）
日本人入学生の数が減っている。

[2. 今後の改善方策]

1～2年生へのアプローチを強化し、早い段階で赤門への入学を意識付けさせる。
ホームページやSNS等を利用し、教育成果を積極的に開示していく。
学校見学会やガイダンスの内容は常に検討、振り返りを行い改善していく。

[3. 特記事項]

--

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

項目名	適切・・・4 やや不適切・・・2	ほぼ適切・・・3 不適切・・・1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか		3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		3
財務について会計監査が適正に行われているか		4⇒3
財務情報公開の体制整備はできているか		4⇒3

[1. 課題]

財務関係は、一般教職員にはどうしても、縁遠い感があり、的確に評価出来る教職員が限られてしまうようである。わからない感に、漠然とした不安を持つものもいるようである。ただ、ここ数年、財務の安定には学生の確保が絶対要件であることが、全員に浸透してきているので、意識の統一は出来てきていると思う。

[2. 今後の改善方策]

法人の財務内容を的確に内部、そして外部にどう発信していくのが課題になると思う。

[3. 特記事項]

HP上に公開されている財務内容がどのように判断されているのかも、今後は注視する必要があるようである。

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

項目名	適切・・・4	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2	不適切・・・1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか		3
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか		3
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか		3
自己評価結果を公開しているか		4⇒3

[1. 課題]

教職員の法令に対する知識水準があまり高くなく、監査頼みの傾向にある。また個人情報保護に関して、パソコンのウイルス対策が不十分であることは危惧すべき現状である。

[2. 今後の改善方策]

自己評価には貴重な意見が多い。せつかくの評価結果を活かすべく、改善に向けた取り組みを積極的に行う仕組みを作る必要がある。

[3. 特記事項]

電話での問い合わせには、各教職員が個人情報の保護に注意した対応をしている。

平成30年度 自己評価表

1. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

項目名	適切・・・4	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2	不適切・・・1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか		3
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	2	
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか		2⇒3

[1. 課題]

学校の施設を活用した文化祭などの一般来場者向けのイベントを開催している。また中高生を対象とした職場体験や外部への講習も実施しているが、回数としては充分とは言えない状況にある。

[2. 今後の改善方策]

学校の姿勢として、さらに地域や社会に貢献する機会を増やせる体制を整える必要がある。また、職場体験や外部への講習については依頼がある場合に対応するに留まっており、今後は外部へ向けて積極的に宣伝する必要があると考えられる。

[3. 特記事項]

中学生に対する職場体験や高等学校での体験型ガイダンスについては、入学に繋がる広報活動として捉え積極的に行っている。